

教科の重点スキルとスキル育成のためのテーマ【 A2 問題発見力 D1 言語力】

社会的ジレンマを取り入れた討論型学習の充実

1 単元 わたしたちの生活と政治

2 単元の目標

- コミュニティバスの維持を事例として、地方公共団体の政治の働きに関心をもち、意欲的に調べようとしている。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- コミュニティバスの維持を事例として、地方公共団体の政治の働きについて、見学や調査活動、話し合いを通して、自分の考えをまとめることができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- コミュニティバスの維持を事例として、地方公共団体の政治の働きについて、バスターミナルを見学したり、各種資料を活用したりして、必要な情報を集め、読み取っている。
(観察・資料活用の技能)
- コミュニティバスの維持を事例として、地方公共団体は、国民生活の安定を図るために大切な働きをしていることを理解している。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 児童の実態

アンケート調査 (*月*日実施 男*人 女*人 計*人)

意見文「8月最終週から学校開始に賛成?反対?」

A 反対です。夏休みは、短くするべきではないと思います。なぜなら、休みの日は楽しいし、家族や友達といろいろ遊ぶし、普段できない楽しいことにも挑戦できるようになるからです。そもそも、日本の夏はとても暑くて勉強に集中できないし、勉強に集中できなければ、成績も悪くなるからです。

B 賛成です。夏休みは、短くしてもよいと思います。なぜなら、現在、公立小中学校の冷房の設置率は29.9% (文科省調べ) で、前回の調査よりも11%も上がっています。現在吾妻小でも冷房の設置が進んでいます。このままいけば、今後の調査でも設置率は上がるでしょう。冷房のある部屋で学習できるならば、短くしてもよいと思います。実際に冷房の効いた塾は夏休みもやっているのですから。(※グラフ付)

1 どちらの意見文が、よい意見文だと思いますか。

A *人 B *人 わからない *人

2 なぜ、そのように考えたのですか。

A 記述内容の肯定 *人

・書いてある理由がたくさんあるから。など

A 好き嫌い *人

・短くなるのは嫌だから。など

B 記述内容の客観性 *人

・理由にはっきりとした数字がでているから。

・文部科学省の調査にもとづいているから。 など

B 資料の活用 *人

・グラフが出されていてわかりやすかった など

児童が「お互いの立場や自分の意見の根拠をはっきりさせながら伝え合う」ことができるかを判断するために、実態調査を行った。具体的には、主観的な根拠に基づく意見文 (以下 A) と、客観的な根拠に基づく意見文 (以下 B) を比較するというものである。すると、A をよいとした児童が*%にのぼった。これは、児童の意見が、客観的な根拠ではなく、単純に項目の多さや、自分の好き嫌いに基づいて構成されるものになりかねないことを意味する。自分の考えはしっかり述べるが、客観的なデータに基づいているかどうかの確認をせずに議論を展開していく児童の姿が浮かび上がる。議論を通して、根拠をはっきりさせながら伝え合う力を育成していくことが必要になってくると考えられる。

(2) 次世代型 AZUMA プランの重点スキル育成のための手立て

次世代型 AZUMA プランにおける社会科の重点スキル「D1 言語力」、お互いの立場や根拠をはっきりさせながら、伝え合う力を育成するために、本時では、大きく2つの手立てを取り入れる。

第1の手立ては、討論型の学習である。これは、「社会問題を題材として児童が自分の考えを作成し、それに基づいて議論を行い、考えを発展させていく話し合い活動」である。話し合いを展開するにあたっては、児童の意見の根拠が、好き嫌いや思い込み、決めつけによるものにならないよう留意していく。具体的な内容としては、規模縮小意見が出ている公共交通「つくバス」を取り上げる。そして、規模縮小に賛成か、反対かを問い、客観的な根拠に基づいた意見の交流を支援することで、「D1 言語力」の育成を図っていきたい。

第2の手立ては、ICT機器の活用である。ここでのICT機器とは、協働的な学習を実現する学習支援システムである「スタディネット」と呼ばれるものである。これは、タブレットと大型スクリーンによる「タブレット学習システム」の一つであり、児童・生徒が一人一台のタブレットで直感的に操作、表現したものを双方向で吟味していくことができる学習システムである。ICT機器で児童の意見の集約や吟味を円滑化していくことで「D1 言語力」の育成を図っていききたい。

4 指導と評価の計画

(1) 次世代型 AZUMA プランと関連単元 (D1 言語力)

前期 (1年~4年)	中期 (5年~7年)	後期 (8・9年)
情報を収集・整理し、お互いの考えの共通点・相違点を整理しながら伝え合うことができる。	お互いの立場や根拠をはっきりさせながら、伝え合うことができる。	帰納・類推、演繹などの推論を用いて思考し、伝え合うことができる。
3年 のこしたいもの、つたえたいもの	6年 わたしたちの生活と政治	9年 現代の民主政治と社会

(2) 単元の指導計画 (本時は○)

次	時	学習活動	評価規準
1	1	・市役所・市議会は、よりよい市民生活のために予算や条例について話し合っていることを調べる。	・市役所、市議会、予算、条例などの基本的な社会的事象を理解している。 (知識・理解)
	1	・つくばバスターミナルを見学し、インタビューなどを通して、「目的・路線数・運行数・利用者など」について調べる。	・見学を通して、便利な市民生活のために、つくバスが整備されていることを読み取っている。 (技能)
	1	・見学で分かったことをもとに、なぜ、路線が少ないところや、減っている路線があるのか、理由を考える。	・税金との兼ね合いなどから、縮小に賛成する意見もあることを理解している。 (知識・理解)
2	2	・公共交通に関する自分の考えをまとめる。	・つくば市のバス路線廃止の賛否について、根拠となる事実を明確にして、考えをまとめることができる。 (思考・判断)
	① / 1	・つくば市の公共交通についての話し合い活動を通して、相手の考えを分析し、自分の考えを発展させていく。	・つくば市の公共交通をめぐる話し合い活動を通して、相手の考えを分析し、自分の考えを発展させることができる。 (思考・判断)
1	1	・市役所の方に、質問を行い、回答をいただくことで認識を深める。	・質問や提案という形で、社会参加しようとしている。(関心・意欲・態度)

(3) 本時の指導計画

① 目標

つくば市の公共交通である「つくバス」についての話し合い活動を通して、相手の考えを分析し、自分の考えを発展させることができる。

② 展開 (◎評価, ☆重点スキル育成のための手立て)

学習活動及び内容 (学習形態)	指導上の留意点
<p>1 学習課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">つくバスの規模縮小について話し合おう。</div> <p>2 自分の考えをもとに、小グループで話し合いを行う。</p> <p>(1) グループごとに話し合う。</p> <p>(2) グループで一つの考えにしぼる。 多数決などでグループの意見を統一する。</p> <p>【予想される児童の反応】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">○賛成 (効率重視)</p> <p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線数を減らしていく。 ・バス本数を減らしていく。 ・バス停を減らしていく。 <p><理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3億8千万円の運行経費は、赤字になっているから。 ・13路線あった路線は、現在6路線にまで縮小しているから。 ・作岡シャトルは、12便も減っているから。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">○反対 (公正重視)</p> <p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス本数を維持していく。 ・路線バス本数を増やしていく。 ・バス停を増やしていく。 <p><理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線数、バス停数、本数を維持することで便利さが失われないから。 ・高齢者や子供(交通弱者)が増えているから。 ・一人一台の自家用車で移動するより、環境にもいいから。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">○中立, 具体的政策提言</p> <p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔軟性のあるつくタクの利用。 ・赤字解消のための民営化。 </div> <p>3 プレゼンを行い、学級で一つの案の創出をめざす。</p> <p>(1) 意見を発表する。</p> <p>(2) 質問・反論する。</p> <p>4 まとめをする。</p> <p>話し合いを行うと時間がかかるのに、なぜ話し合うのか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">バス路線については多くの考えがあるが、話し合いをしていくことで、自分たちの考えを発展させることができる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の意見文を、事前に作成させておくことで、活動の見通しが持てるようにする。 ・ 自分の考えと相手の考えの違うところはどこか確認しながら議論を行っていきけるよう、話し合いの手順を明示し、円滑な活動を支援する。 <p>☆ グループで一つの提案を行えるようにグループでの話し合いを設け、構成員全員の共通理解を図る活動を行うことで、一人一人の「お互いの立場や根拠をはっきりさせながら、伝え合う」機会を確実に保証するようにする。(D1 言語力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループは原則男女2人ずつの4人構成とする。 ・ 「現実の社会では、決まりなど多くの人に関わるものごとを決定する時、多様な意見を集めた上で決定していく」という民主主義の決定のプロセスを踏まえ、一人の意見ですべてを決定してしまうことのないように、強固な意見をもつ児童には、異なる意見の納得できる部分に注目するように促す。 ・ グループ内の意見が分かれなかった場合、予想される質問や、反対意見への反論などを考えるよう促す。 ・ 随時、児童の意見を確認し、記述内容を把握しておくよう留意する。考えがうまくまとまらない児童には、個別に助言を行い、既出の考えや記述内容を元に、考えを発言できるように促したり、支援したりする。 <p>☆ スタディネットを活用して、グループの意見を集約し、電子掲示板に掲示しておくようにすることで、意見の共有や練りあいができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を十分にとり、他人に説明することを前提に自分の考えをまとめさせる。 ・ 無理に結論に誘導するのではなく、根拠は信頼できるか、反対意見であっても納得できる部分(見過ごせない部分)はどこか、という観点で建設的に検討しあうように促す。 <p>◎ つくば市の公共交通をめぐる話し合い活動を通して、相手の考えを分析し、自分の考えを発展させることができたか。(社会的な思考・判断・表現：ワークシート, スタディネット記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとの意見を、わかりやすく効果的に発表できるよう、スタディネットでグループの意見を集約したものを、児童が活用できるように支援する。 ・ 児童の意見やつぶやきを大事にしながら、児童の考えをつなぎながら授業を進めていく。この時、賛成・反対、どちらかが正解であるような結論付けはしないようにしていく。 ・ 話し合うことによって、よかったことは何か、新たな発見はあったかどうか確認し、話し合いにより自分たちの意見が発展することがあることを確認する。